

理研会報

発行日：令和元年9月30日
号数：No. 400
発行：印旛地区教育研究会理科研究部
HP：http://rikainba.com
メール：rikainba@yahoo.co.jp



去る8月27日(火)、第69次印教研集会理科研究部会が開催されました。今年は小学校部会の会場を成田中央公民館に変え、中学校部会は例年通り成田小学校を会場として、それぞれ5つの部会から提案をいただきました。そして、中学校部会は北総教育事務所指導主事 松原 充久先生、小学校部会は富里市立富里中学校副校長 古谷 成司先生より、各提案について丁寧にご助言をいただきました。選考の結果、小学校部会、中学校部会ともに3部会が県教研へ進むことになりました。



今年も、若い先生方が発表者になり、タブレットにプレゼン資料を入れて、ITC機器を活用した研究実践を報告したり、その場で会場の先生方を相手に模擬授業をするなど個性のある発表が見られました。若い先生方が質問や意見を堂々としていたりしている場面も見られ、頼もしさも感じました。ベテランの先生方も意見を述べられ、討議の中で若い先生方にアドバイスをしている姿がみられました。

助言者の先生方、提案された各部会の先生方、司会、記録、受付補助等でご協力をいただきました先生方に、心より御礼申し上げます。

☆ 参観された先生方から ☆ (敬称略)

四街道市立山梨小学校 戸田 大輔

今年度の研究集会提案では、どの部会も新学習指導要領の完全実施に向けて、主体的・対話的で深い学びとなる実践提案がなされていました。「主体的」の類義語として、「自主的」という言葉があります。辞書によるとこの2つの違いは、「自主的」はやることが決まっておらず自分でやることを見いだすところにあるそうです。第一部会の提案で、「全ての児童に対話の必然性を意図的に生み出すことができたかは疑問」とありました。対話的な学びを通して、「自主的」から「主体的」な学びに飛躍させる難しさを感じました。第三部会が提案した習得と活用を意識した学習プロセスは、提示の仕方や実験の方法を工夫すれば、主体的な学びとなる



のではないかと感じさせられました。

第五部会の提案協議で話題になった、「おもしろい」に代わる設問の文言についても考えさせられま

した。意欲的であるかどうかを問いたいと思ったときに、児童にどんな言葉で問えば適切な回答を得られるのか、答えは出ませんでした。

どの提案実践も、「理科っておもしろい！」と自分が思える内容でした。今年度も、充実した提案発表を聞いたことに感謝いたします。

印西市立六合小学校 大作卓也

今年度私が受け持っている学級の児童には理科好きの子が多くいます。それだけに「どうすれば今よりもっと探求する心を育てることができるだろう。」と思い、日々指導を行ってきました。令和初の教育研究集会理科部会では、その点を解決できる手立てを学ぼうという思いをもって参観させて頂きました。

どの部会でも、具体的な体験活動を通して児童に疑問や課題をもたせたり、諸感覚を刺激する教具を考えたりして、児童ひとりひとりのことを考



えた研究をしていることが心に残りました。児童の活動の様子や感想を詳細に記録し、研究に生かしている部会もあり、児童が理科の学習を楽しんでいることが目に浮かぶようでした。

古谷副校長先生の御指導からは、対話的・主体的で深い学びを「やる気が持続し、熱心に話し合い、新たな学びがあること」とし、「大事なものは児童にとっての問題の所存であること」という言葉が特に心に残りました。教師が指導するとき、都合の良いように学習問題を立てるのではなく、児童と向き合って考えていくことが大事だと思い、日々の指導を反省しました。

今回学んだことをもとに、ひとりでも多くの児童に生涯を通して理科を学び続ける思いをもたせられるように、日々の指導に励んでいきたいと思ひます。

成田市立成田中学校 古川 慶



理科研究集会理科部会の発表では、毎年多くの先生方のアイデアを聞かせていただいています。今年も5つの部会の発表を聞き、大変勉強になりました。それぞれの部会が様々な視点で研究を進めており、9月からの授業で実践していきたいと思ひました。特に3部会の発表では、擬似的な雲を発生させ大気の動きを観察する授業や

earth:地球の風を見て大気がなぜ動いているのかを調べる授業を紹介していただき、地学分野の授業を行う上でとても興味深い内容でした。

すべての部会の発表に共通することは、新しく改訂された学習指導要領にある「主体的・対話的で深い学びの授業」を実践するための研究でした。「主体的・対話的で深い学びの授業」を行うために必要な課題の設定や発問の仕方など、私自身まだまだわからないことがたくさんありましたが、各部会の実践発表を聞いて自身の授業を見直す良い機会になりました。



新学習指導要領の完全移行まであと少しなので、

授業力を高めてよりよい授業が実践できるようにこれからも努力していきたいと思ひます。助言者の先生方、提案をされた先生方、ありがとうございました。

八街市立八街中学校 齋藤 信彦

新学期を迎えるにあたり、印旛教育研究会での提案を拝見させていただき、自分の授業実践の反省と、新たな方法や考え方を吸収する場として貴重な時間となりました。

どの部会の対提案も、新学習指導要領の導入にあたって授業の工夫を進めていくという課題に取り組んでいました。1部会の「思考セット」で用いられているフローチャート、2部会のワークシートの工夫は、学習・実験の見通しを持たせることに有効な手段でした。計画することやそれについて話し合うことは普段の授業の中でも取り入れられていなかったもので、時間をかけてやってみる価値があると感じました。3部会の「単元の柱」、5部会の遺伝シミュレーションも、単元の考え方の基本となるものを明示し、生徒に予想や考察への意識を持たせたり、生徒の視覚にうったえる教材であったりと興味深いものでした。

今回の提案で、考える場の設定・工夫で生徒の学びを深くできるとわかりましたが、松原指導主事のお話にもあった通り、教員のはたらきかけも重要だと感じました。生徒の「こうしたらどうか」「次はどうなるだろう」「こんなことがわかった」を正しく評価し次に繋げていく指導の方法も探求していこうと思ひます。



- ・台風15号により大きな被害を受けた学校や、先生方も多かったことと思ひます。健康に留意されお過ごし下さい。一日も早い復旧をお祈りいたします。
- ・理研会報も今回で400号になりました。いままで多くの先生方に原稿をお寄せいただいたおかげです。ありがとうございました。これからも理科研究部の活動へのご協力をお願いいたします。次回の401号は今年公開できなかった理科作品展の審査の特集の予定です。